

左馬武神社と五輪塔

左馬武神社は、今川氏の一族で新野領主新野左馬助親矩公を祀った神社である。



神社の社殿造営は、明治年間（28年ころ）に行われ、現在の社殿は、昭和49年9月に落成したものである。落成式に併せ、左馬助親矩公没後410年祭が行われた。

社殿内に祀られている五輪塔は、左馬助公の墓と伝わるものである。

「小笠郡誌」には、

「井伊氏の客家老に新野氏あり主家の祖を助けし大功により世々尊重せらる、曾て祖先墳墓の地を尋ねて新野村に來たり探究する所あり、山の中腹の墳墓を發く、石棺を獲紋章あり丸に豎中黒即ち新野家の家紋たり、石棺内に五輪の塔あり、其人祖先のなりとて大いに喜び懇に弔祭して去りしと伝ふ、是安政年間の事なりしと伝ふ。」と記述されている。

この伝承から、五輪塔は幕末の段階で発掘されて新野氏墓所として顕彰整備され、その後左馬武神社として信仰され現在に伝えられたものであることがわかる。

なお、郡誌にある石棺は、残存している石廟のことと思われ、石廟内に五輪塔を納める形態は、石川県慈雲寺富田家石廟群等に類例があるが大変珍しい。

左馬武神社は、新野一帯や舟ヶ谷の城山を望む位置に立地しており、五輪塔が石廟内に納められていたことから、新野氏の墓所にふさわしいと考えられる。



左馬武神社社殿

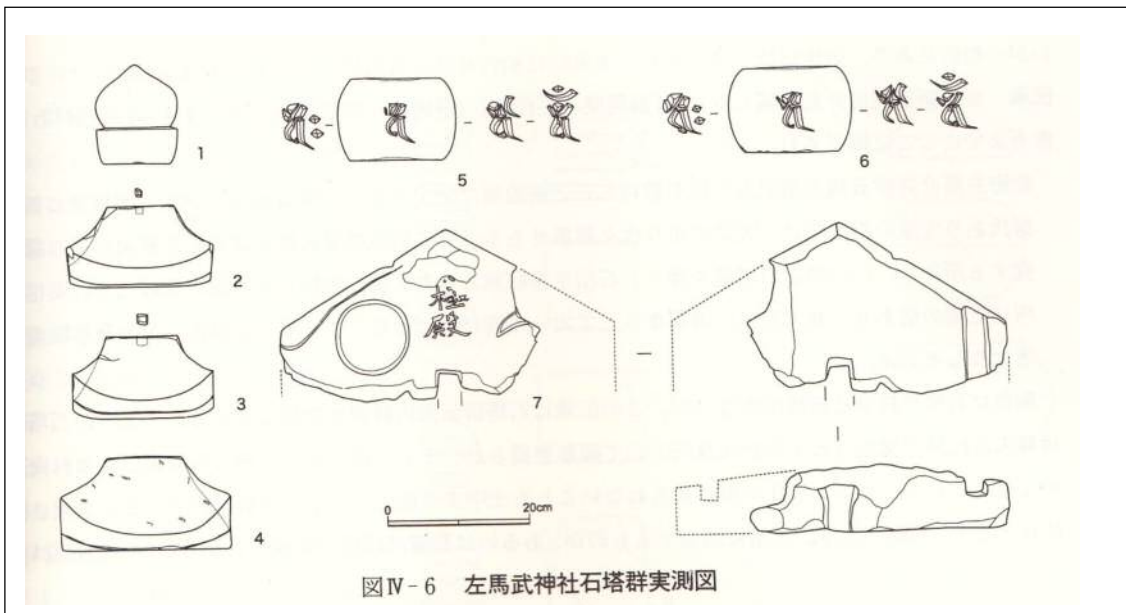


五輪塔（地輪は後補）と石廟残欠

五輪塔とは

五輪塔は、地・水・火・風・空という世界を構成する五元素を、四角・丸・三角・半球・宝珠という五つの形の組み合わせで表現したものである。

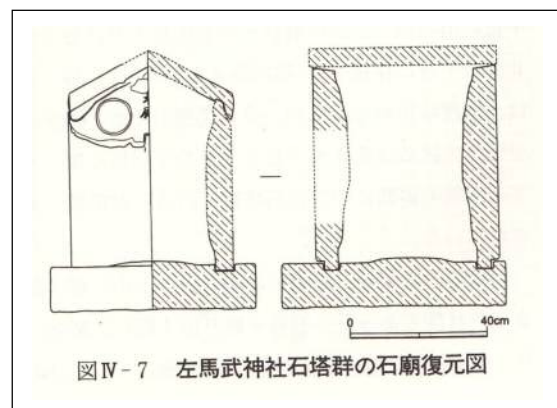
神社内では、6点の部材が確認されている。1は空風輪、2～4が火輪で、2, 3は上面に木ホゾ用の穴があいている。5, 6は水輪で、各面に四門梵を刻む。各面ともシャープな薬研彫りの書体が認められる。



石廟

石廟の残欠が積み置かれている。構造は、平面長方形の基礎に側板材をはめ込み、その上に屋根材を被せる簡素なもので、復元高は76cmほどとなる。

正面板材の上半（上図7）には、「□極殿」の刻銘があり、それを挟むように左に日輪、右に月輪（一部のみ）が確認できる。



引用 『浜岡町史』資料編 考古